

千葉美術散歩

ビゴーが遊んだ海、
一村が歩いた野



2025年11月1日(土)から

2026年1月8日(木)まで

開

館30周年を記念し、千葉市美術館が在る千葉という「場」をテーマとする展覧会を開催いたします。時代は明治期から現代まで、「場」はジョルジュ・ピゴールの滞在や海気館で知られる稲毛、黎明期の洋画家・堀江正章が指導を行った旧制千葉中学校、画家・無縁寺心澄が描いた市内各地の建物や風景、田中一村がその四季折々を見つめた千葉寺町の周辺、戦後の千葉アートシーンの一拠点となった国松画廊、そして昭和2年(1927)に川崎銀行千葉支店が建設され、建築家・大谷幸夫がそれを包み込む形で設計した千葉市美術館など。こうしたいくつかの「場」を展覧会の各章に設定し、所蔵品を中心に関連する作家——柳敬助や石井林響、板倉鼎、濱田清治、遠藤健郎、椿貞雄、田岡春径、深沢幸雄らとその絵画作品を取り上げること、千葉の美術地図の作成を試み、千葉市美術館を介して過去と未来が地続きに繋がるさまをご覧いただきます。



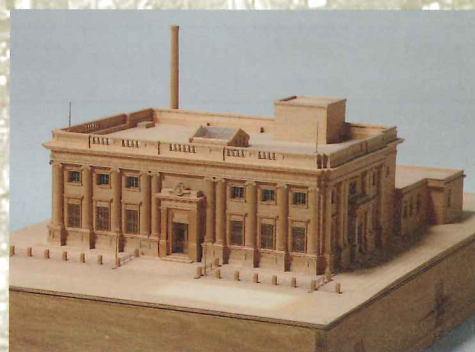
ジョルジュ・ピゴール『稲毛海岸』明治36年(1903)／千葉市美術館蔵



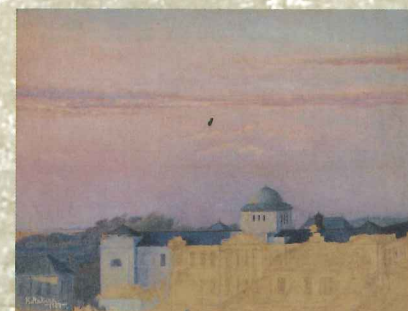
濱田清治『小艇(下図)』昭和14年(1939)頃／戦没画学生慰霊美術館無言館蔵



遠藤健郎『夕日』昭和20-25年(1945-50)頃／千葉市美術館蔵



川崎銀行千葉支店模型(千葉市中央区市民センター時代)
たぬま いさお製作(大谷研究所監修)／千葉市美術館蔵／撮影：杉原寛大



板倉鼎『千葉町』大正6年(1917)／松戸市教育委員会蔵



田中一村『仁戸名蒼天』昭和35年(1960)頃か／
個人蔵(千葉市美術館寄託) ©2025 Hiroshi Niiyama



無縁寺心澄『千葉中時計台』昭和6-14年(1931-39)頃／
千葉市美術館蔵



柳敬助『堀江正章像』大正5年(1916)頃／
千葉県立千葉高等学校美術館蔵



堀江正章『室内草花園』明治45年(1912)／東京藝術大学蔵

地理院地図(電子国土web) <https://x.gd/aMy2x> をもとに千葉市美術館作成



交通案内

JR千葉駅東口より

ー徒歩約15分

ーバスのりば7番より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」または「大和橋」下車徒歩約3分

ー千葉都市モノレール県庁前方面行「葦川公園駅」下車徒歩約5分

京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

東京方面から車では

ー京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車、国道51号を

千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く

ー地下に機械式駐車場があります(車高155cmまで)。ーシェアサイクルスポットがあります。



千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
3-10-8 Chuo, Chiba 260-0013, Japan
Tel.043-221-2311 (代表) <https://www.ccma-net.jp>

※内容やイベントが変更になる場合があります。最新の状況はホームページをご確認ください。
※表面の写真は展覧会のイメージであり、実際の展示風景ではありません。

●同時開催

5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」

休室日：第1・3月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始、1月6日(火)

企画展をご観覧の方は無料

※10月8日(水)より1月4日(日)まで、須田悦弘の特集展示を開催します。

※12月2日(火)より2月1日(日)まで、田中一村《アダンの海辺》を展示します。

4階子どもアトリエ「つくりかえラボ19 小森はるか+瀬尾夏美 |へびと地層」

2025年10月11日(土)～2026年1月25日(日)

休室日：第1・3月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始 観覧料：無料

●次回展予告

開館30周年記念「ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン所蔵

ロックフェラー・コレクション 花鳥版画展 北斎、広重を中心に」

2026年1月17日(土)～3月1日(日)